



適期播種が何より大事！

多収には、**適期播種(7月上中旬)**して生育量を確保することが重要です。

天候不順でやむを得ず遅れる場合は、生育量確保のため、播種量を増やします。

播種時期別の播種量

標高200m以下の適期播種量	播種量の目安 (kg/10a)	条間cm × 株間cm
適期 (7月上中旬)	5	70 × 25 ~ 20
晩播 (8月上旬まで)	8	70 × 20 ~ 13

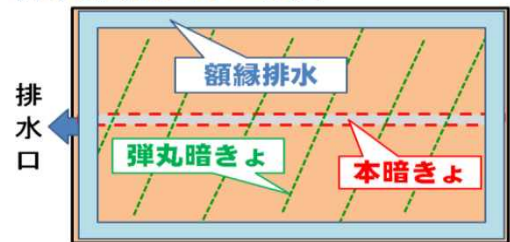
注)一株2本仕立て播種量。

そのために、前もって圃場や資材を準備し、**適期播種**できるよう備えましょう!!

準備1：播種前の営農排水

排水対策は、適期播種への第一歩です。事前に排水対策を行っておけば、雨間の作業がしやすくなります。速やかに額縁排水や弾丸暗きよを施工しましょう。

排水対策のイメージ図



準備2：種子の準備はめかいたく

～種子更新は大事です～

種子伝染性病害に感染した紫斑粒(紫斑病)や褐斑粒(ウィルス病被害)を圃場に持ち込まないためにも、種子更新を必ず行いましょう。

～種子はある程度 余裕を持って準備しよう～

大豆の播種時期は梅雨と重なるため、やむを得ず遅れる場合があります。不測の晩播対策のため、種子は余裕を持って準備しましょう。



紫斑粒

準備3：種子消毒は必ず実施しよう

殺菌剤は、紫斑病を予防します。また、悪天候時の種子腐敗を抑え、欠株防止にも役立ちます。殺虫剤はフタスジヒメハムシなどの害虫防除に効果的です。

種類	農薬名	使用量 (種子1kgあたり)
殺菌剤	キヒゲンR2フロアブル	20ml
殺虫剤	クルーザーFS30	6ml
殺菌+殺虫剤	クルーザーMAXX	8ml

両方処理する場合、クルーザーFS30を先に使い、乾燥後、キヒゲンを塗抹します。



フタスジヒメハムシ

- フタスジヒメハムシの成虫は、葉、莢、茎などを食害します。一方、幼虫は、土壤中で根粒を食害します。幼虫の被害は目立ちませんが大豆の生育を悪くするため対策が必要です(特に、大豆連作圃場では注意が必要)。
- 殺虫剤を使用しておらず、フタスジヒメハムシや褐斑粒に心当たりのある方はクルーザーを必ず使用しましょう。